

城取博幸の
島根県のスーパーマーケット見聞録

No162
2023年8月
城取フードサービス研究所
城取 博幸

[島根県松江市の「隠岐牛」とスーパーマーケット「LAPIN\(ラパン\)」](#)

2023-08-24 17:00:22

鳥取県白兔神社から島根県出雲市へ
途中松江に寄る



「中国地方の蔓牛の研究」

ネットで島根県の「ト蔵牛」を探したが見当たらない
その代わりに隠岐の島の「隠岐牛」を見つけることができた
焼肉屋は何件があるが、営業は夕方から
私を除くメンバーは夕方までに広島に戻らなくてはならない
松江市内で「隠岐牛」を扱うビストロを探す

「庵 TENDRE」

島根県松江市朝日町 484-4

ここで昼食



隠岐牛ののぼり



× 島根県海士...
furusato-tax.jp

**ブランド牛「隠岐牛」特集！
A5・A4の雌牛のみにこだわった
上質なお肉です。**

巷で有名な「〇〇牛」という土地の名前が付いたブランド牛。実は、そのほとんどがその土地で生まれた牛ではありません。私たちが大切に育てている隠岐牛は、正真正銘、隠岐で生まれて、隠岐で育った本物のブランド牛。4等級以上で、特に肉質が良い雌牛のみを「隠岐牛」として認定しています。規格が厳しく、年間120頭ほどしか隠岐牛になることができないため、一般市場にはほとんど出回っておりません。そんな、こだわりの隠岐牛を、ふるさと納税で味わってみませんか？

壱岐の島で生まれて、壱岐の島から一歩もでずに育った牛

年間 120 頭しか出荷されない貴重な牛

メニュー



隠岐牛ガーリックピラフ

隠岐牛のもも肉のローストビーフを使ったピラフ

サラダと部位は一緒だが温かいローストビーフ

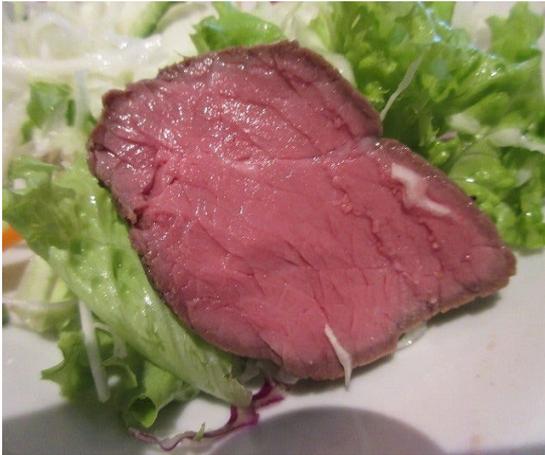


隠岐牛サラダ

冷たいローストビーフ

赤身はクセのなく柔らかくうまみ味が強い





隠岐牛入りデミグラスハンバーグ
隠岐牛のミンチと豚肉の合挽肉のハンバーグ
牛肉比率が高い 70%以上はありそうだ



隠岐牛入りおろしハンバーグ



隠岐牛入りハンバーグ
味見はしなかったがシャリアピンソースか



酒屋の宇山

島根県松江市上乃木 5-9-23

高級な焼酎などを安く提供している酒屋

腰の曲がった高齢の女生と話していると

「私は長野県天龍村の生まれ」だという

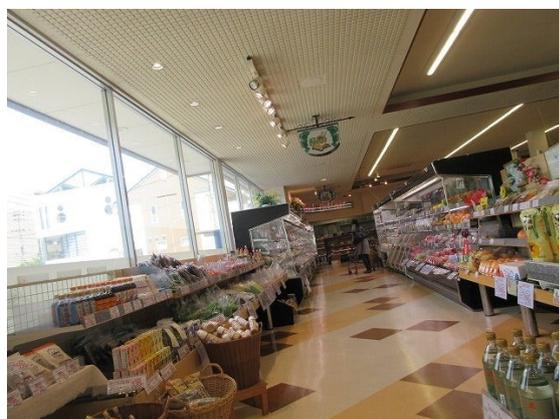
お土産に長野県銘菓「みすず飴」を渡して喜ばれた



QUALITY FOODS LAPIN(ラパン)

松江市に4店舗展開する高級食料品店

地方色豊かな店



店内

静岡県産「三方ヶ原男爵」

「三方ヶ原の古戦場」の男爵芋



日本海産「イサキ刺身」「真イカ刺身」「天然アジ刺身」
どれも鮮度がよく安い

「カツオのたたき」「カツオたたき刺身」「カツオお刺身用」の3SKU を品揃え



「沖メバル」「イサキの切り身」

「宍道湖(しんじこ)産しじみ」



粒が大きい

肉の量り売り



島根和牛



うんまか豚

「うんまか」は鹿児島方言

山形県の加工肉メーカーのハンバーグとミートボール



新潟名物の「栃尾揚げ」

鳥取砂丘「らっきょう」



長野県名産「野沢菜漬け」

それほど大きな店ではないが全国からよく商品を集めていることに感心する

冷凍食品と惣菜売場



牛乳売場

プリン



地元の牧場のプリン



昔懐かしい
カラメルは別添
惣菜売場



「牛筋コロッケ」
牛すじ丼
これもおいしそうだ



やきとりバイキング

国産地養鶏のやきとり



涼味麺コーナー インストア製造だ

「とびうお南蛮漬け」



予約パンフレットは「祝」と「仏」弁当 地域密着だ

おもしろい店、おもしろい商品の品揃え、店長と少しお話をさせていただいた

地方スーパーマーケットは「宝の山だ」 こういう店に頑張っで欲しい

隣の酒屋さんも有名店



次回は出雲市を紹介します

せっかくなので出雲大社も訪れたい 一泊二日はかなりハードであった

出雲「稲佐の浜」「出雲大社」「出雲歴史博物館」

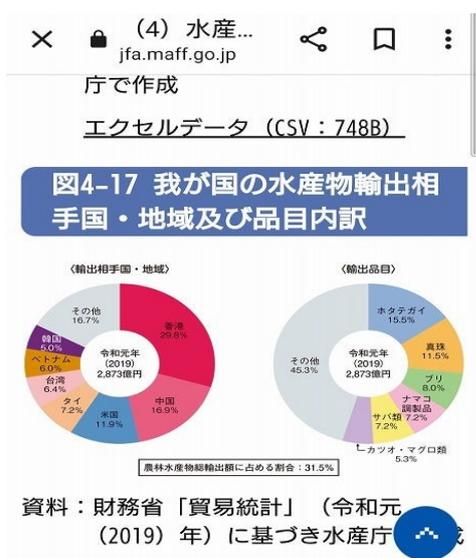
2023-08-28 17:00:18

日本の水産物輸出(財務省 貿易統計)

香港、中国への水産物の輸出は約 45%

漁業関係者へのダメージは大きい

輸出魚(帆立、ぶり、なまこ、さば、かつお、マグロ)をもっと食べるよう政府も取り組んでほしいし私たちも食べるようにしたい



トリチウムを含む水は各国の原発から排出されている(BS テレビ番組より)

日本の 20 倍という国も(データが正確であれば)

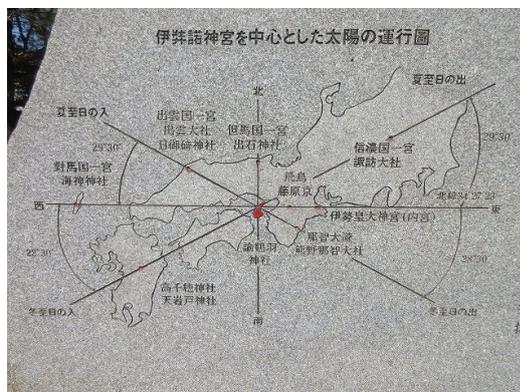
日本政府は世界に向けて数字で発信すべきである

ここで日本人もしっかり主張しておかないと、時間が経ってしまえば「日本の汚染水の影響」とされてしまう

言うべきことはしっかり主張する

出雲大社と諏訪大社との関係

淡路島「伊弉諾神宮(イザナギ)神社」(今年4月訪問)



そこにこんな「伊弉諾神宮を中心とした太陽の運行図」が

地球は丸いので直線では表せないがほぼこのコースを太陽が通る

夏至に「諏訪」から登った太陽は「淡路島」を通り「出雲」に沈む 初詣で賑わう諏訪大社下社



諏訪大社夏至の日の出 夏至の時期 我が家(伊那市)から見た日の出

日の出の方向に「諏訪大社」がある



出雲大社 夏至の日没



宍道湖に沈む日没 その先は「出雲大社」
電車の中から撮影
諏訪と出雲は何か縁を感じる

稲佐の浜(伊那佐の小浜)

松江で昼食を済ませ、出雲の「稲佐の浜(いなさのはま)」へ
出雲大社の参拝はまずここから



神話の舞台「稲佐の浜」

神無月(10月)に全国の神が集まる場所
そこで出雲の10月は「神在月」と呼ぶ
出雲大社に神々が通る「神迎の道」と言われている

この岩は「屏風岩(びょうぶいわ)」



大国主大命と建御雷神(タケミナヅチ)が「国譲り」について話し合った場所
鳥居と神殿が見える



パワースポットで記念撮影

10月に呼ばれない神がいる

その神は諏訪大社の「タケミナカタ」

「タケミナカタ」が「国譲り」の時に「タケミナヅチ」に敗れ諏訪に追われた

それ以後「諏訪の地から出てはならぬ」と禁じられたからという説

もう一つは「龍神信仰」で諏訪から出雲まで蛇の長さがあったという神話

諏訪地方でも10月は「神在月」と書く

神話はおもしろい

諏訪の神様は出雲に行けない？

出雲では、出雲大社ほかいくつかの神社で旧暦10月に「神在月」の神事が行われる。

全国の神々が集まり一年の事を話し合う為、出雲以外には神がいなくなる、これを「神無月」という。全国の神々が集まる中、ただ一人だけ集まらない神がいると言われている。

長野県、諏訪湖に位置する諏訪大社の祭神、諏訪明神である。

これも不思議

出雲には「伊那」とつく場所が二カ所ある

さらに、なぜ「伊那」が改名されたのか？

古事記には「伊那佐之小浜(いなさのおばま)」と記されているが、今は「稲佐の浜」になっている

「大穴持伊那西波岐神社(出雲大社摂社)」

ここには「伊那」の名前が残っている

近くには「韓釜神社」

渡来人が「たたら製鉄」を行ったという場所

「たたら」とは「ふいご」の意味

砂鉄をふいごを使い炭で低温加熱したもの

日本独自の技術

今も刀の「玉鋼」の技術が伝承されている

”

いなさのおばま
出雲国の伊那佐之小浜に降り
立ち、たけみかづちのかみ とつかのつるぎ
武御雷神は十束剣を
抜き、逆さまに波の先に刺し
立て、その剣先にあぐらを組
んで座りながら国譲りを迫っ
た

古事記の国譲り編”



大穴持伊那西波岐神社(出雲大社
社摂社)



時間がなくこの2か所は訪問できなかった
またの機会に
「伊那」については出雲歴史博物館で聞いてみようと思う

出雲大社
「縁結びの神様」「福の神」として名高い
御神体は「大国主命(おおくにぬしのみこと)」



大国様が因幡の白兔を助けた
大黒様(大黒天)と大国様(大国主命)とは違う守神

参道を進む



茅の輪 習わしに従ってくる 正面の入口



案内図



牛の像 牛は生贄に使われた

手水舎



おみくじ結び

拝殿でお参り 拝礼作法は「二拝四拍手一拝」



「出雲大社のしめ縄は逆」と言われているがよくわからない 縄の編み初めが細くなっている 左は縄が切られている ここは右側が細いため、一般的な神社の逆に吊るされている

神紋



左の脇道を進む

これは



長屋のような建物

10月に「八百万の神」が集まった時の宿泊施設



本殿の裏側の奥宮には「須佐之男命(すさのうのみこと)」が祀
ここでも縁を感じる



高天原(上天界)から追放されて地上の神になった
ヤマタノオロチを退治した英雄でもある

説明文



裏側の岩 砂は何に使うのか



屋根の向きが違う部分



ここは忘れずにお参りしたい場所

いつも混雑している場所

御本殿は正面が南向きであるが、殿内の御神座は西向きになっている
稲佐の浜の方向だ

御本殿正面で拝礼後、御神座正面のこの場所で再度拝礼する



出雲大社を後にして「出雲歴史博物館へ」



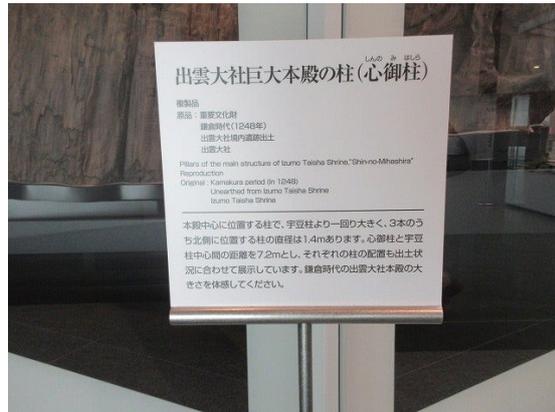
途中の井戸

出雲歴史博物館



館内に入り一番目立つ場所に

出雲大社巨大本殿の柱(宇豆柱)



心御柱

場所によって名前が違う



この3カ所が発掘された

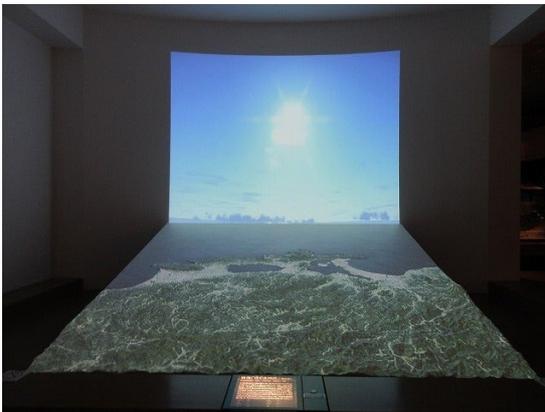
本殿に向かう長い階段のレプリカ



本殿下の柱



このうちの3本が発見された さらに進む



土器類 かまど 江戸時代までこの様式が使われた

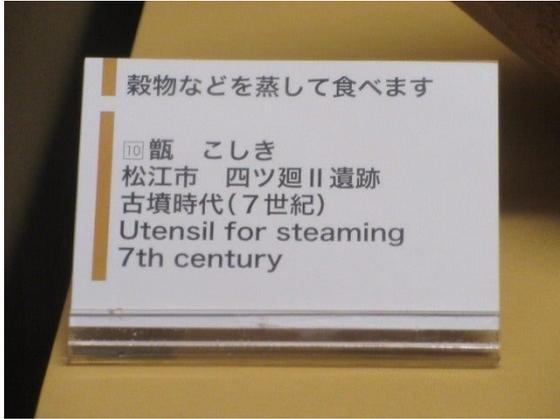


こしき

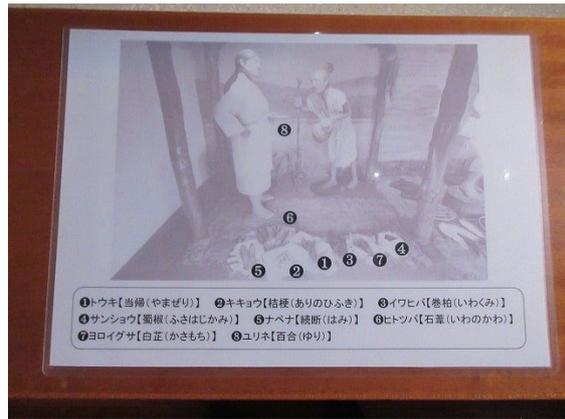
古墳時代(7世紀)のもの

穀物などを蒸して食べた

米も穀物も「煮る」より「蒸した」方が長持ちする



食品が専門であるため、当時の農海産物に興味がある

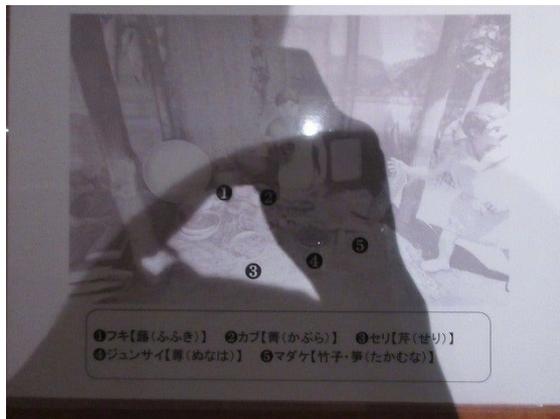


農産物

海産物



これは料理か



さらに進むと

この展示は迫力がある



荒神谷遺跡(出雲市)から出土

銅剣 358 本、銅矛(どうほこ)16 本、銅鐸(どうたく)6 個が発掘された

この量はすごいがなぜ埋めたのか？

銅鐸



馬に乗った像

埴輪(はにわ)



常楽寺古墳の男子像埴輪は、「鍔付きの帽子」をかぶります。女子像埴輪は、粘土板で作られた鬘まげで頭を覆い、供物を捧げもつようです。こうした人物埴輪は、松江市岩屋後古墳いわやあとでも出土しており、出雲の有力古墳の埴輪には地域を越えた共通性がみられます。

説明文

最後に

疑問に思っていた「なぜ伊那の名前が出雲にあるのか？」

受付で学芸員を呼んでもらい聞いてみる

答えは「分からない」とのこと

自分なりに調べてみると

「大和朝廷のころ、朝鮮半島から渡来した技術集団」

この集団を「猪名部(いなべ)」と呼んだことから「伊那部(いなべ)」となったと書かれている

確かに伊那には天竜川と三峰川の合流地点に「伊那部」という地区がある

時代は合っているか分からないが、「朝釜神社」付近にはたたら製鉄所跡がある

近くの「大穴持伊那西波岐神社」の「伊那」の意味が理解できる

万葉集にある「伊那佐の小浜」がなぜ「稲佐の浜」に変わってしまったのか？

それは、「出雲大社」の元の名前は「杵築大社(きずきたいしゃ)」であったが、1871年(明治4年)に改名された

それと同時に由緒ある「伊那佐の小浜」も「稲佐の浜」に改名したのではないかと推測する

*「朝鮮半島から渡来した」とあるが、縄文から弥生にかけて朝鮮半島は大陸からの通り道であったという

秦の始皇帝から遣わされた「徐福(第3子)」が海から日本に渡った

徐福が縄文時代から弥生時代の変革に大いに影響を与えたという説がある

最近では徐福の歩いた道が「神武天皇東征」の道と重なることから

「徐福」=「神武天皇」説まで飛び出した

神話はおもしろい

伊那市 名前由...

伊那市の歴史と 歴史人・有名人



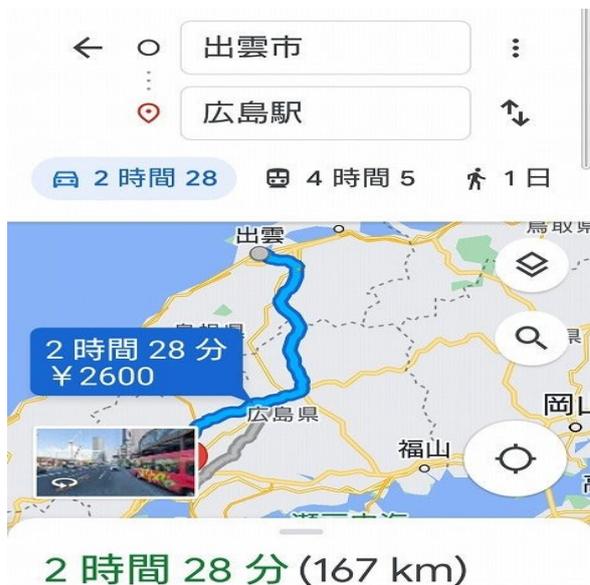
大和朝廷のころ、朝鮮半島から渡来した技術者集団が陶器や武具、農具などを生産し、この集団を猪名部（いなべ）と呼んだことが、伊那部（現:伊那市）の名前の由来となっています。江戸時代に入り三州街道（伊那街道）ができると、伊那部宿が開かれます。

私は仲間と出雲でお別れ

仲間は出雲から広島まで2時間半かけて移動

広島市内で渋滞に会い仲間の一人は新幹線の最終便5分前に到着

お疲れ様でした



私は出雲に2泊延泊

「隠岐の島」「境港の市場」を見学する予定だ

「現地、現場、現物、現食主義」の私としては意地でも「隠岐牛」を食べなくては帰れない